

親子で学ぼう！リビング子ども大学 2019 「作ろう！ 観よう！顕微鏡ワールド」

植原 邦佳

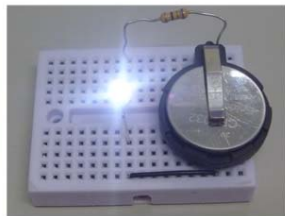
技術部 技術職員

令和元年7月31日(水)に開催された「親子で学ぼう！リビング子ども大学 2019『作ろう！観よう！顕微鏡ワールド』」に植原技術職員が参加しました。

「親子で学ぼう！リビング子ども大学 2019」は、サンケイリビング新聞社が、様々な大学で開催している、小学生と保護者が力を合わせて実験工作をしたり、普段は見られない大学の施設を見学したりするイベントです。大阪大学では、部局横断型女性技術職員ネットワークによる「作ろう！観よう！顕微鏡ワールド」と題した様々な顕微鏡を体験するイベントが実施され、倍率約14倍の抽選にて当選した小学生(4～6年生)と保護者の25組50名が参加しました。

まず、開会にあたって工藤理事とネットワーク代表の基礎工学部 中本技術専門員が挨拶を行い、その後、植原技術職員が「ものが大きく見える仕組み」についての全体講義を行いました。

次に、ペットボトル顕微鏡とLEDランプを製作し、野菜などを観察した後、デジタル光学顕微鏡を使って、セミの抜け殻や塩など自宅から持参した試料を観察しました。さらに午後からは、つくしの胞子の不思議について学んだ後、実際に研究で使用している走査電子顕微鏡(SEM)の見学と操作体験を行いました。



ペットボトル顕微鏡とLEDランプ

ペットボトル顕微鏡とLEDランプの製作体験では、子供達が真剣な眼差しでピンセットを使う様子や一生懸命に回路図を考える姿、さらに、観察に用いたバナナ・玉ねぎ・トマトの違いを嬉しそうに話してくれる姿を見て、ものづくりや研究の面白さを共有出来たように感じました。

さらに、接合科学研究所のSEMを使用した見学および操作体験では、「いつもの顕微鏡と違ってすごかった！」と言う子供達の笑顔と実際に自分でSEMを操作した後の誇らしげな顔がとても印象的でした。

この経験が子供達の良い思い出や将来のきっかけとなってくれることを願うと共に、今後もものづくりや研究の面白さ伝えるイベントに積極的に関わっていきたいと思います。



工藤 眞由美 理事・副学長



LEDランプ用の回路設計



植原技術職員による全体講義



電子顕微鏡の操作体験



部局横断型女性技術職員ネットワークと
サンケイリビング新聞社の皆さん